

中国における JICA の貧困対策への取り組み

中国では、1994年に「八・七扶貧攻堅計画（貧困層8,000万人の衣食住問題を2000年までの7年間に解決することを目指した計画）、続く2001年9月に「中国農村扶貧開発綱要」（2001-2010年）が発表され、重点的に貧困対策に取り組んだ結果、衣食住の問題を抱える貧困層は78年の2億5千万人から約3,000万人（年収625元（約75ドル）以下）まで減少したと言われてはいますが、国際的な基準である「1日1ドル」基準で見ただけでは、中国は依然として1億人を超える貧困人口を抱えており、発展から取り残された農村部と都市部の格差は今後も拡大していく恐れがあります。中国政府は、この問題を重視し、地域間格差を是正すべく様々な取り組みを進めていますが、沿海部と内陸部の経済格差は、例えば、2002年の一人当たりGDPが最高の上海が40,646元（約4,900ドル）であるのに対し、最低の貴州省は3,153元（約380ドル）で未だ約13倍の開きがあります（中国統計年鑑2003）。



上記の現状を踏まえ、JICAでは、内陸貧困地区の貧困克服を支援するため、「貧困緩和のための農村開発」、「内陸部の生活環境改善（医療衛生・教育環境の改善、農民の収入向上等）」、「社会的弱者への支援」及び都市・農村構造調整の一環として「地域間格差の是正」を重点開発課題として取り組んでいます。これらの取り組みは、政策支援を目的としたマクロレベルと小規模な地域を対象とした草の根レベルの両面から行われています。

1. 「貧困緩和のための農村開発」及び「内陸部の生活環境改善」

「貧困緩和のための農村開発」及び「内陸部の生活環境改善」では、西部地区（特に少数民族地区）を主な対象とし、内陸貧困地域の主たる産業である農業の生産性向上のための農業技術の移転、普及等に取り組んでいるほか、農村部の初級医療水準向上のための人材育成や内陸貧困地域の医療従事者への技術指導を行っています。また実施にあたっては、日本の持つ各種援助スキーム（専門家派遣、

